

第3回 伊東市津波対策湯川地区協議会議事録

場 所：湯川区民会館

日 時：平成 28 年 6 月 16 日（木）19:00～

出席者：地元役員・関係団体 19 名、県関係者 10 名、市関係者 5 名

1. 挨拶

挨拶



2. 熱海土木事務所から説明

- ・ 配付資料についての説明
- ・ 伊東港海岸に関係する5地区で7割以上の方が環境や景観を考慮して護岸は要らないという結果だったのでソフト中心に行きたいと考えている。



3. 伊東市から説明

- ・ 対策の優先順位についての説明
- ・ 避難計画の策定についての説明

4. 話し合い（ワークショップ）

- ・資料 1 により、第 2 回地区協議会において出された、地震・津波発生時に想定される課題と対応策を確認します。その際、ハード対策の方針（護岸整備はしない）も確認します。
- ・資料 1 を見ながら、地元としての意見をまとめていくため、資料 2 を使い、数グループに分かれて意見を出し合ってください。
- ・グループワークの内容は、
 - ① ハード対策（護岸整備）の方針の確認
 - ② 対応策の抽出（他地区の対応策の活用や新規アイデアも）
 - ③ 対応策の具体化（具体的な避難ルートの特典など）
 - ④ 優先順位（短期的対策（2～3 年）、中期的対策（10 年以内）、長期的対策）づけです。

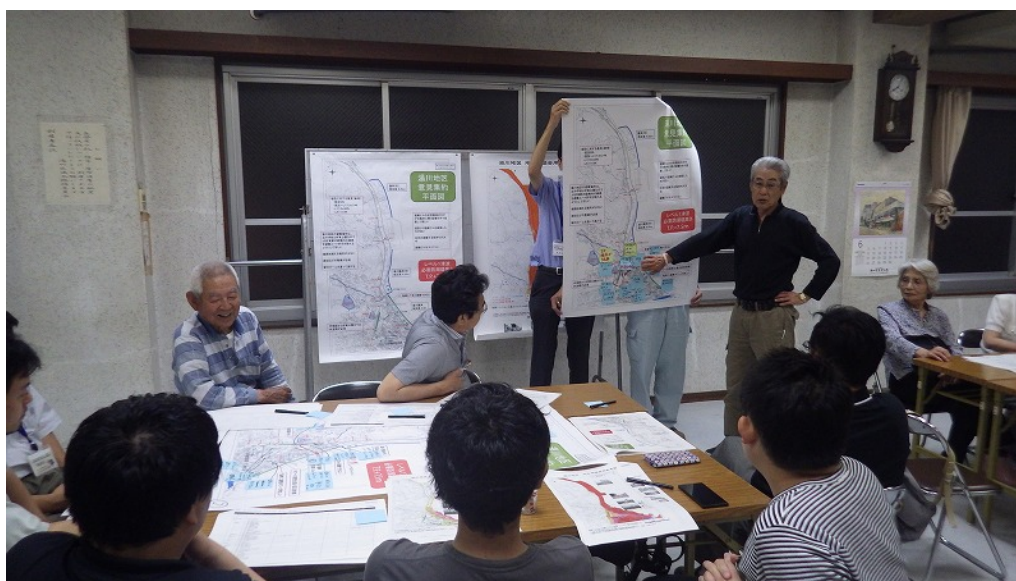


5. 意見発表

1 グループ

1 番肝心なのは湯川のガードは津波が来たらまず駄目だろうと。で、松原のガードは津波の時に、時間的にある程度いいだろうと思うが、まずは駅の構内を公園の方に抜けられるような交渉をしてもらいたい。それは、なかなかJRの方も難しいということなので、1 番いいのは、駅の駐車場に避難タワーを造って、そこから伊東公園の方に陸橋をかけると、それがベターかと思う。それもなかなか、支柱を構外に建てなきゃならないということで非常に難しいと思われる。

だとすると、東海の該当地がある今は観光協会か旅館組合に貸してある、昔の貨物ヤードの所に避難タワーを造って頂いて、下は車両で使える。上2 段階、避難タワーにしたらどうか。で、ある程度、落ち着いたら、松原ガードの方から伊東公園の方へ避難するという方法が今の所良いと思われる。あと、避難タワーの候補地としては、昔、東洋館があったところの駐車場も候補地としていいんじゃないかということで、話がまとまった。



2 グループ

2班では大体1班と一緒に、まずガード下が危ないので3丁目・4丁目辺りの方はどうしても伊東駅の方を通りたいということで、歩道橋の整備あるいは、そのフェンスを取り外して欲しいというような意見が出た。あと、1・2丁目の方は、2丁目の避難ビルの喜楽荘は解体予定で、グリーンホテルも老朽化しているので、新たに上條ビルを避難ビルにするとか、幼稚園に避難タワーを設置した方がいいという意見が出た。

駅に近い人は、伊東駅を通過して伊東公園の方へ行きたいということと、海側の人は避難ビル・タワーに逃れるという話にまとまった。



3 グループ

第1グループ・第2グループと似たような発想なので、同じ話が重複するかと思う。湯川1丁目の例を取りますと、パークロカンダに、最初避難する。こちらから伊東公園にっていうような訓練をいつもやっている。ただ、このパークロカンダには1丁目の人や3丁目の人も避難してくる。そうすると、訓練の時は人数が少ないから使用できるが、現実問題としていざと言う時には1丁目だけでも400人位いるのでそれだけでいっぱいになってしまう。

そこで避難タワーをいくつか造ってもらいたい。4丁目は線路に沿った駐車場があってここが集合場所になっているということです。あと、東海バスの車庫の跡とか、それから、東洋館だった市営の駐車場とか、それから、湯川幼稚園、そういう所に、造ってもらったらどうか。現実それが可能かどうか分かりませんが、そういうようなご意見が出た。

ただ、実際に、そういった所に避難した後に避難する場所がないので、津波が迫ってる時に、そういう避難の仕方ができるのかどうかっていうような話も出た。で、そうした場合、駅のホーム、今の所はちょっと抜けられないようになっていて、許可が貰えないようだが、通れるような施設とか、避難できるような形も必要ではないか。最終的に湯川の人達は伊東公園へ分散という形を取らざるを得ないと思うが、そういう場合に何処から何処へ行くというような所まできっちり詰めてほしい。訓練でやるだけだと厳しいと思う。

